



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

## 気になる奴ら

かなり気になる奴らに会った。大阪のあるイベントで出会ったダンスグループ「Bugs Under Groove」（以後Bugsで統一します）の子達なのだが、なかなかご機嫌な奴らだった。

本来は7人のメンバーらしいのだが、私が会ったのはそのうちのTESUYA、SEIGO、SIOという3人である。

一応ナビゲーターという名目で行ってたので、彼らにインタビュする側の人間としては「何か絶対に言いたいことはないですか？」と聞いておくことにした。しかし、会ったばかりの彼らは「あ、お早ようござ

います」と立ち上がり、まずきちんと挨拶をしてくれた。あなたは「そんなこと当たり前じゃないか」と思っているかもしれないが、ダンス界というのは奇妙なところで、こういってはなんだが、かなり奔放な人が多いのである。

まあ、当然モチベーションの高さと技術を要求される職業なのでそうなるのかもしれないが、ちよつと昔まではダンスで食つていけるという国ではなかっただけに、奇妙なプライドに包まれている人も多いのが現状だ。そんな中でBugsの3人の礼儀正しさや、明るさ、イベントへの積極的な取り組み方は好感度120%だった。

なんでそんなことを感じたかという点、今年に入ってからイギリスのダンサー、アダム・クーパーにインタビュする機会があったからだ。彼は今、世界でもっとも注目されているダンサーのひとり。今年日本はTBSが出資してなんと新作を振付けし、主演。「危険な関係」と

いう作品を作り上げた。ひとりのダンサーが、ひとつの作品を丸々作り上げるのはたいへんなことなのだが、世界一流の実力を誇る彼が日本でそれをやってということとは、もう少しフューチャーされてもよかったのではないかと思うくらいだった。

ま、日本のおば様ファンはアダムが魅力的なポーズをとってくれば、新作立上げの重要性なんてどうでもよかったのかもしれないが……。ともかくそのアダム・クーパーに会ったら、陽気なことにまず驚かされた。インタビューでもユーモアと機知にとんだ会話で対応してくれて、たいへん好感のもてる人だった。

偉大なアーティストは気難しいという印象を持っているのは日本人の偏見かもしれない。逆に気さくな人柄からかもし出される余裕が、相手に「舞台も観てみたい」と思わせる。それがその相手にとって、正しく嬉しい発見でなくてはならないのだろう。

Bugsの3人に会ったのはまさしく、日本人のダンサーもこれくら

い喋ってくれたらなあと思っていた矢先のことだった。男ばかり7人のダンスチームで、すでに全国11箇所での公演を満席にするという彼ら。さぞストイックな感じなのだろうと思っただけに、その陽気さに触れられてほっとした。

彼らは、

「自己紹介にひとりづつ舞台に出るのもモタついた感じなんで、いっぺんに出て軽く踊ります」

と言出し、中でもTETSUYAは、

「糸ふさんが嫌じゃなかったら、僕がリフトしますから、肩に乗って下さい」

と言出し出した。踊り手は私のような素人に対して、そういうことは普通言わないものである。なぜなら、素人は体の使い方がわかっていないので危険だからだ。それがケロリと言えるのは自信の現われである。彼らはよほど練習するのだろう。

ともかくそんなことで、私の今気になってるB u g sのことを書かせてもらった。6月24日から新しい作品のツアーも全国である。気になる方は調べて見て下さい。本当の意味でのイケメンに出会えますよ。

---

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇団」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。

---